

リーフイブ Leafy's Anthology Returns また〜んす

DL!



ご挨拶

みなさま初めましての人は初めまして！
初めてじゃない人はどうもいつもの俺だよはろー！
TS界隈の超局所的で色々良くさせて頂いているリーフィです。

軽く自己紹介をさせてください。
私はすっごく雑に言うなら
某一頭身キャラをちょっとだけ弄ったものを
自己投影アバターとして使って某tsfコミュニティで遊んでたら
「女の子にならないの？」と聞かれたんですね
「それは自己投影キャラなので俺が女体化されたみたいで
恥ずかしいですテレテレ！」と言ってたら
気づいたら女体化絵を勝手に描かれちゃい
気づいたらそれが広まり
気づいたら女体化する人の烙印を押され
気づいたら取り返しのつかない事になっちゃった
そんな男、それが私です。チキショウ！！！！！！

なのでこの本は、ある種「オリキャラts本」なのですが
それと同時に「自分が女体化されてるのを集めた本」です
なんの羞恥プレイなんですかねほんとに??????

でも、総勢60名！圧倒的人数！
ここまでの方が集まって、ましてや私のオリキャラ兼私の
合同本を作れたのは、皆様のおかげです。
本当に最大級の感謝を！

次はまーほぼないだろう、一度限りの超豪華TS本
お楽しみに！

素晴らしき参加者の方々

総勢60人もの方々に参加していただきました！本当にありがとうございました！




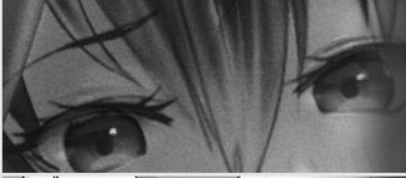













皆様素晴らしい原稿ばかり！とんでもなく豪華な本になってると思います！



















でも一個だけ、スママセン一個だけ！私からすっっっっっっごいギモンがあります！！

「何故俺の女体化姿が多いのか」に関しては

なんで????????????????????????????????

 <p>工藤うき 8P</p>	 <p>くろ～ん 18P</p>
 <p>みゆーけ 9P</p>	 <p>木下ささみ 19P</p>
 <p>森下真央 10P</p>	 <p>カネコナオヤ 20P</p>
 <p>おじおじさん 11P</p>	 <p>ひょうが 21P</p>
 <p>Salut 12P</p>	 <p>阿多溜ますか 22P</p>
 <p>無限の須田時計 13P</p>	 <p>祥梵 23P</p>
 <p>謎中 14P</p>	 <p>桜すず 24P</p>
 <p>ぴぴけ 15P</p>	 <p>炎帝竹輪太郎 25P</p>
 <p>四葉チカ 16～17P</p>	 <p>hirateuchi 26P</p>

	すがり 27P		てふ 39P~40P
	rain 28P	小説 「緑玉と淫魔」	このざま 41P
	工藤うき 29~30P	小説 「TSTFメスケモサキュバスリーフィ」	ミキマル 42~47P
	海籠ろじ 31P	小説 「その夢はただの願望なのか？」	水姫七瀬 48~55P
	はちたろう 32P		水面 56P
	eta 33P		三日月ネコ 57~58P
	ギンパニシ 34P		いるこ 59~60P
	ズンダリンダ 35P		あるふれっ鳥 61~63P
	かもり 36P		骨機ツネ 64P
	めた子 37P		おうつち 65~66P
	まりも 38P & 表紙!		REIA 67~70P

	Jupiter D Zweistein 71~74P		なつのみ 97P
	新生t P75		んごんご 98P
	Root 76P		るくすりあ 99~102P
	daice 77~78P		むらさきいろ オレンジ 103~104P
	オ~ミチ 79~82P		くまのみ 105~106P
	メリケン 83~86P		星野かえで 107~108P
	せりなさん 87~89P		はんげしょう 109~112P
	四捨式 90P		おしん 113~116P
	しろクラゲ 91~96P		いぬくりいむ あいす 117P

総勢60名!
+ワイ!

この同人誌の
メインキャラ
リーファイ(TS)

…えー…この度は
「リーファイ合同」購入頂き
誠にありがとうございます
私が訳あって今は女の子な
リーファイです…

色々未熟な私が
すごい大ポリウムな
本を出す事が出来たのは
皆様の応援あってからの
ことでした…大変感謝…

折角の合同なのに
なーんで不機嫌なのよ♪
折角おめかししたのに♪

大人な事情で
「おめかし」を
せにゃあかん
からだよ！

いいじゃないー
色んなところに
配慮せず済むし
ずっとそれでいれば？

いやでも
俺は男だし…

まあ確かにそりゃ
美少女の方がウケは
たつから男はしんどい
けど俺は元々男でしか
ないから男でいようか
と悩んでるのよ

さっさと
女体化して
くれた方が
楽だし

人の葛藤を
楽の一言で
つた斬るな
ぶ

まあ
そういう
わけだし…

にやま…

早速楽しい楽しい合同タイム
初めて行きましよう♪
私もあなたも一緒になって
メスに堕ちるの♪

むい…

お、堕ちねえし！
俺は男！男だから！
そこは変わらねえからー！

俺は男：だ!!

なあ、葉っぱ
食べさせて
くれよ…



藤崎





身も心も
すっかり女の子に
なっちゃったver.の
リーフィちゃんを
描きました!

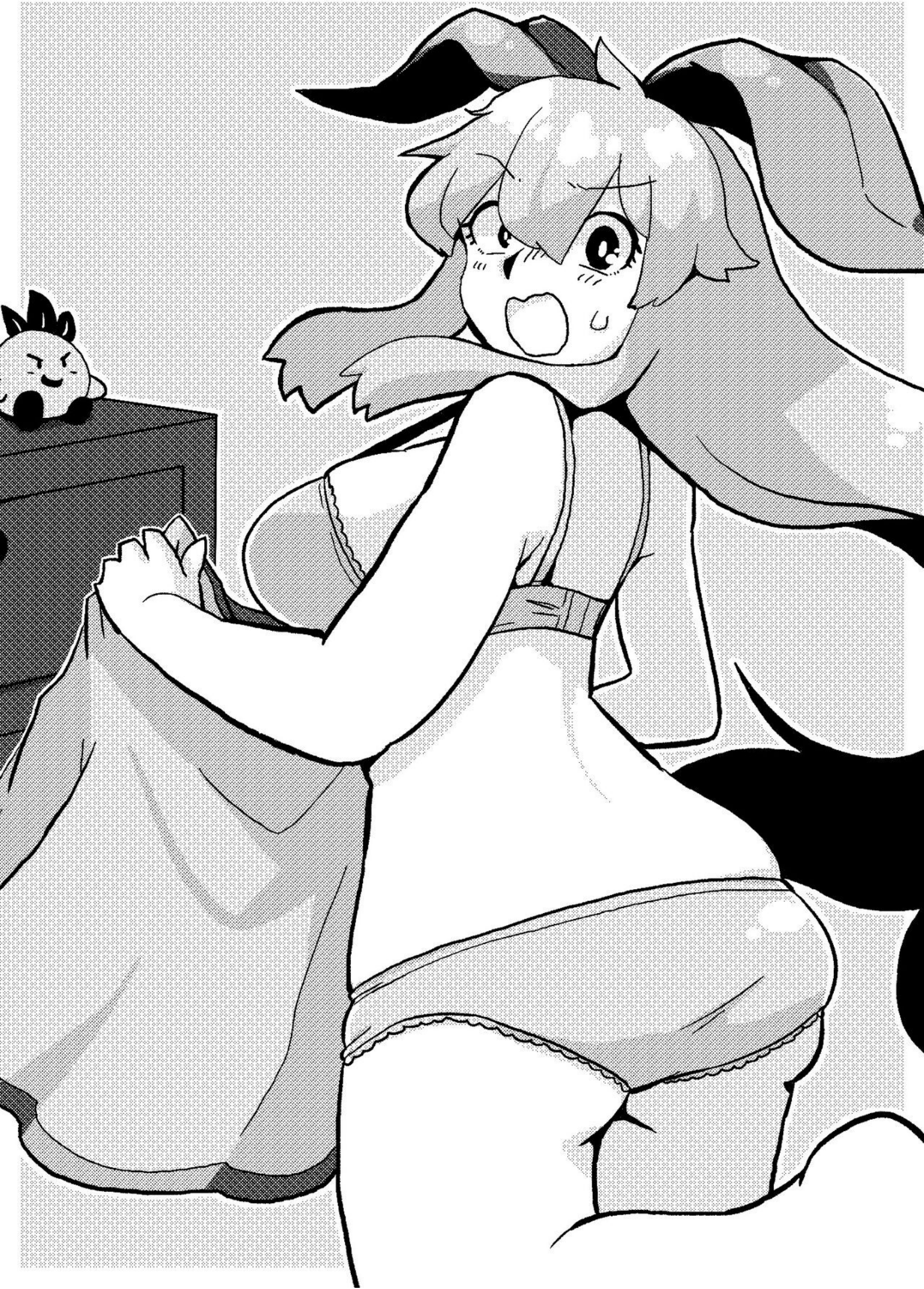
木下真央





Y!S2☆Yalut







×スリーフィちゃんの
葉っぱがうさみみみたいで
可愛かったので
バニーの格好を描いてみました！





Mica
Totsuka
Kinko
Crown

一人こっそり

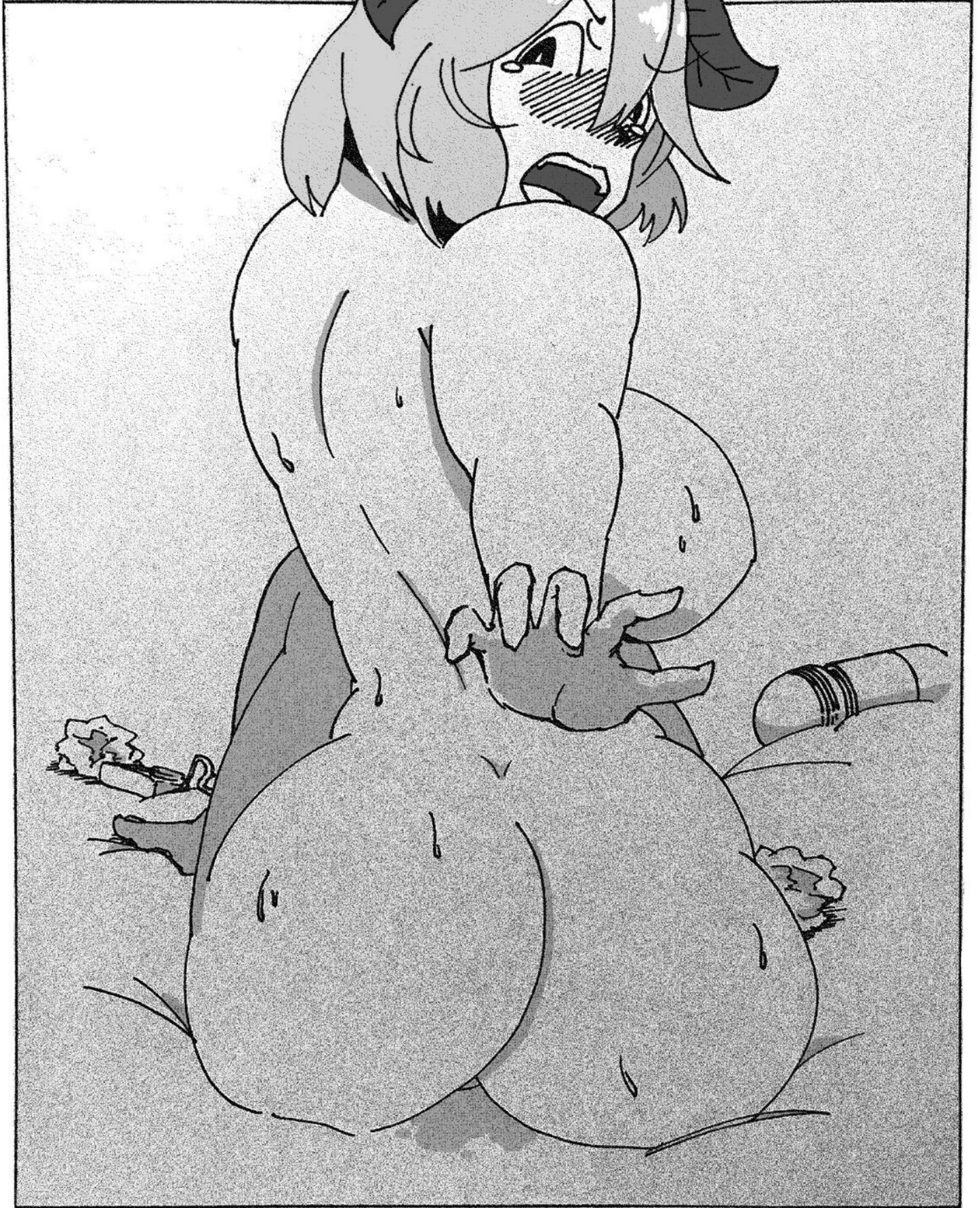
女の子の体になった自分を

確かめたくなった

リーフィちゃんは可愛い

ムムム

くろ〜ん





ハキュバス
1171
ママ!!
♡

♡
♡
♡
2011
30

HAKU



じゅん-じゅん-
リ-フ-ア-ちゃん

かたがひ
2020.10.31



2020 Ryoji
リリちゃんも
エロいよね、おねえ



認め
知
て
きた
よ。

認め
め
な
い
て
ご
め
ん
ね。



リーフィ合同おめでとー！

参加した桜すすです。
普段は小説メインです。

お疲れ様です。
桜すすです。
まさか、まさか・・・
アナログをそのまま
入稿する馬鹿は
私だけだと思います。

リーフィちゃんは女の子。

というより、
描いていたら。

成長した女性
みたくなりました。

嘘だ：鏡に映るサキュバスが俺：？
リーファイ！！俺に何をした！

えー？見たらわかるじゃない勇者様♡



敗者には眷属になってもらうのが

当たり前でしょ？ふふ



屈強な勇者からか弱いサキュバスになった
事を体に教えてあげるからね♡

日本の種豆肉師
美少女おしんく
最強の肉像
このお肉は絶対
身体が丈夫で
お肉TS界のアイドル
お肉は最高の
お肉
お肉
お肉







カイショウナシ













ふたりは











「……で」
「なんで俺が二人になってるんだよ」
「知らんがな。昼寝して起きたらこれだよ」
少女化したリーフィと二頭身リーフィは呆然として床に寝転がっていた。

「特に理由のない分裂」

その日の日差しは、リーフィを眠りに誘うには十分なほど暖かく、力強いものだった。

「はあ……こんな日は昼寝するに限るな」

その二頭身の体を、フローリングの上に横たえる。まるで、緑の玉が床の上に転がっているような状態だ。すぐに、彼の目は閉じ、眠りに落ちてしまった。

その時、日差しが強まり、リーフィの頭に生えている葉がピクツと反応した。そのうちの真ん中に生えている一枚が、もぎとれると同時に、彼の体が光りだした。

光の玉となったリーフィの体が、上下に伸びていく。子供ほどの大きさとなると、体の一部が緑の髪となって分かれ、手足が長く細く伸びる。

「ん、ん……」

その胸がググツと盛り上がると、さらに膨らみ、新たに形成された服をグイグイと引っ張って、その間に深い谷間を形成していく。

長く伸びた脚にムチムチと皮下脂肪がつくと、変化は終わった。

光が引いていくと、そこには、美少女と化したリーフィが横たわっていた。

「やば、こんな所で寝落ちはずいって……って、声が！？」

リーフィは目を覚ますとすぐに喉を押さえた。体を起こそうとしたが、体が重く持ち上がらない。

「って、喉があるってことは……また女体化したのか！」
眼下でたゆんたゆんと揺れる胸を見て、ため息をつく。

「おなかも重い……って、これは……」

胸の下に、もう一つの球体があった。その肌触り、その上に生えているらしい植物の葉。

「まさか、俺……？」

「何だお前っ！」と、お腹の上から声が聞こえる。その声は、紛れもない元のリーフィの声。

「お前こそ誰だよ！俺はリーフィだよ！」

「そうっばい……な。」

元のリーフィは大きくため息をついた。

「……で」

「なんで俺が二人になってるんだよ」

互いに考えていることもだいたい分かる。

「知らんがな。昼寝して置きたらこれだよ」

少女化したリーフィと二頭身リーフィは呆然として床に寝転がっていた。

TS界の真実の御伽噺。

TS界で女体化かますと……“緑玉”が来襲る!!

「あ……あの淫魔の姉御……」

「なんだい出田楽、あんたも女体化プレイしたいのかい？」

淫魔と呼ばれた女性とその下っ端の男、そして周囲には大勢の女、女、女、大勢の元男達、女体化した男たちが各々様々な行為で楽しんでいた。

「オレは別にその気はねえですよ、ただこの人数はちいとヤバくねえスか？
こんだけ大勢だどこから漏れるか……」

「ヤバイのが好都合のよ、この女体化はさあ〜“緑玉”を誘い出すためやつ
てるの！漏れれば漏れるほど“緑玉”はきつと……」

興奮する淫魔、そんな淫魔に向けて銃を突きつける下っ端。

「…付いていけねえ、オレは抜けさせてもらうぜ淫魔!!」

そんな下っ端の行動を鼻で笑い、自慢の尻尾で銃をたたつ切る淫魔。

「えっ……？」

「ウフ：銃なんて遅い遅い、そんなんじや淫魔なんて殺せやしないわよ」

淫魔の尻尾がそのまま下っ端に刺さり気絶する、気絶した下っ端の身体が淫魔の能力で女性へと変わっていった。

「さて、女の子新人ちゃんも女性として楽しめるように調教してあげる！」

淫魔が調教しようと手を伸ばそうとした瞬間、部屋のドアが大きな音を立てて開かれ、そこには一頭身の葉っぱを付けた緑玉がいた。

「おう、緑玉だ!!」

その緑玉を見た淫魔は、一目散に緑玉へと詰め寄った。

「待っていた!! 緑玉と会えるこの瞬間をずっと待っていた!!」

淫魔が興奮気味に尻尾を構え、緑玉へと当てようとする。

「緑玉、私たちが淫魔として活動しているだけなのに、ただの男を女にして
快樂付けにして遊んでいただけなのに、それを邪魔してきた恨みを晴ら」

すべて言い終わる前に、淫魔の身体は緑玉の葉っぱ攻撃で半分になった。

「あら…思ったよりも鬼速い…殺るじゃない…緑玉い…」

ブツ殺した淫魔へと語り掛けるように緑玉が言う。

「オレよオ〜誰彼構わずに女体化されまくってキレているんだよ。オレ以外
に女体化させて遊んでんじやね〜ぞ淫魔!!」

淫魔をブツ殺した緑玉が残された女たちに葉っぱを投げつける

「男に戻りたかったらその葉っぱを使え、それで男の姿に戻れるぞ」
そうして女体化した男たちを残して緑玉は去っていった。

これは、女体化の物語

リーファイ サキバズスリーファイ
緑玉と淫魔

江戸の昔より400年続く因縁の種族共の性転換物語
何方が女体化するか男に戻るかの戦い!!!

「リーフィちゃんをサキュバスにしたいけどキャラが被るのでメスケモサキュバスリーフィにしたい」

「唐突に何?」

サキュバスリーフィはリーフィをメスリーフィに性転換させて性的に弄るのが生きがいである。

「リーフィちゃんは女の子でしょ?」と言う世界中の大きなお友達の声援が力となって生み出されたサキュバスリーフィは事ある毎にリーフィを女の子にしていたが熟年カッブルの様にここ最近はどうもマンネリ気味であり、彼女の悩みのタネであった。

そんな中、サキュバスリーフィはハッと何か良いことが思いついたと一頭身姿のリーフィの前に突然現われると突拍子も無い事を言い出した。それが冒頭の台詞である。

「いや、何時もリーフィちゃんは女の子にしては『俺は男だ!』って否定するでしょ。ある意味様式的な感じでそれはそれで好きだけど、時には私も受けに回りたいな」と思っ

「ツッコみたい事は沢山あるけどじゃあなんでケモだよ」

「いやだって只のサキュバスだと私の2Pカラーになっちゃうし差別化? それにほら、悪魔的にバフォメットとかの前例もあるんだしへーきへーきだつて」

普段は加虐心に操られるままリーフィちゃんに襲いかかるが時には求められないのも女の子の性。それならば同じサキュバスにさせて襲って貰えば良いと言う天才的な発想。ただキャラ被りはゴメンと言うことでメスケモである。

「話が異次元に飛んでいってよく分からないんだけど……」

「四の五の言わずにメスケモサキュバスになれビーム!」

「あばばばb!!」

ページの都合上さっさとメスケモにさせられたリーフィはいつも通りの変身バンクで、頭身の姿から女の子に女体化する。

素っ裸で大っきなおっぱいを片腕で隠し、女の子座りで涙を浮かべながらくっ殺の表情で何時もの格好で睨み付けるメスリーフィ。すると彼女の手先から変化が訪れた。

指先から黒くツンツンとした毛がザワザワと音を立てながら腕全体を包み込み、爪は硬く短く、まるで牛の蹄のように硬質化すると手の平にはザラザラとした肉乳がうっすらと浮かび上がる。

それは腕のみならず足先の方も同等に変化が現われ、足の指はつながり、爪は一つの大きな弧を描いて蹄となると、踵が浮いた足回りに形を変え、太ももは大きく、むっちりとしたお尻になると小さな尻尾がびよんと顔を出す。

お腹周りはポツポツと二つの乳首に沿って、薄く生えた黒い毛の隙間から小さな乳頭が顔を出す。鼻がつり上がり口周りが前へ前へとググツと伸びるとちよこんと搾えめなマズルが形成され、湿った鼻先が顔を出し、石臼のような平べったい歯が生え揃う。

耳は横向きにくるっと弧を描きイカ耳のように羊の耳が生えると頭の葉っぱの内側から白い角がぐるぐると螺旋を描きながら顔を出す。

最後に背中からコウモリのような、対の黒い羽が生え揃うとそこには、一匹の黒ヤギのメスケモが。

『ムチツ:ムチツ:』と擬音が発せられそうな姿の、全身毛皮に覆われているためコンプラ的には問題ないケモセーフな黒ヤギ。

そんなメスケモが困惑顔で自分の身体の変化に混乱したまま涙を浮かべてあふたする。

これがサキュバスリーフィの生み出した新しいリーフィ。『メスケモサキュバスリーフィ』である。

「初めてだったけど上出来、上出来。やっぱり悪魔なら黒ヤギっ娘よね」

「女の子にされるのは百歩譲って人間も辞めるなんて……」

「えっ、今までの一頭身も人間に区分されるの??？」

床に項垂れ落ち込むリーフィを傍目に首をかしげるサキュバスリーフィ。しかしそのような事は二の次である。

「それじゃあそーれえ♡。私を襲いなさーい！」

そう言っつてじつと黒ヤギになったリーフィをのぞき込むサキュバスリーフィ。するとメスケモリーフィのお腹にうっすらと模様、淫紋が浮かび上がる……はずだった。

「……淫紋仕込んでたけどそれ……ちゃんと光ってる……よね？」

「……」

メスケモリーフィは背中を丸めて密集した黒い毛を太い指でどかしながら毛の内側を凝視し模様を探し出す。

本来であればぼんやりと淫紋が光り、催眠状態に陥るのだが如何せん肝心の淫紋が黒い毛に覆われたせいで確認出来ない。しかし蹄の様な太い爪では上手く探し出すことが出来ない為に向に見つかる気配はなく、仕方なくサキュバスリーフィが身を乗り出した。

「……ちよつとそのままお腹を見せたままにして」

「あつ、ちよ、こちよばゆい。やつ、やめい！」

細い指先を流れる毛に逆らう様に滑らしながらエツちな印を探し始める。二人の間になんとも言えない空気が流れ出すがここで素に帰る訳にはいかない。エツちにムードは大切だが勢いも同じくらい大切なのだ。

そうして暫く、ぶっくり膨らんだ恥丘の上に指が掛かった時である。そこにはうっすらと光る複雑な模様が描かれている部位が。

「あつ、あつた。あつた！」

「やつ、やったあ!!!」

目的と過程が逆になってしまった二人は思わず抱きついて淫紋を見つけ出した事に喜び抱きつく。もはや、エツちな事など頭の片隅に押しやられ、二人は達成感に包まれた。

しかしだ。喜びで抱きついた拍子に二人の淫紋が重なり合う。

二つの淫紋は共鳴し青白く光り出すとサキュバスリーフィの頭に電流が走るように快感がほとばしり、突然身体中からドツと汗と同時に愛液が溢れ出したのだ。

甘い香りが辺り一面を醸し出し、突然の事で頭の中がパニックになるサキュバスリーフィは抱きついたリーフィの横顔を覗き込んだ。

そこには目に生気が感じられず、ハイライトを消したリーフィが黙っつてじつと項垂れていた。そして股間に感じる熱いモノ。

恐る恐る下を向くと、そこには赤く充血した立派なイチモツが顔を出す。人間のペニスとは違い、細く長くそり立つたソレはサキュバスリーフィのお腹にピタツとくっ付いていた。

これはヤバイと危機を感じたサキュバスリーフィは急いでその場を立ち去ろうとするが肩に手を回され、押さえ込まれているため身動きが取れない。

羽を使って飛び去ろうにも、人外パワーを駆使してその場から逃げ去ろうとも相手は今、自分と同じ人外であり人よりも力が強い獣だと言う事実が彼女の顔を真っ青にさせる。

確かに自分は時には受けにも回りたいといった。だからといってチンコが生えるのは想定外であるしそもそもなんでこうなっているのか混乱の真っ只中。

元々男の子を女の子にTSさせ、更に種族もカテゴリーも変えていればバグが、つや二つ発生することなどあり得ない話ではない。互いに相手へ性的な契約を示す淫紋が強く惹かれ合った結果が正気を失い獣チンコが生えた『暴走ぶたなりメスケモサキュバスリーフィ』なのである。

そんなメスケモリーフィがサキュバスリーフィに襲いかかる。

「えっ、ちょ、ちょっと待って。ちんちんでもハードル高いのに、ケモチンはマニアック過ぎて人を選んじやう！」

足掻こうにも種族差で敵うはずも無く、ガツチリと挿まれたサキュバスリーファイ。

メスケモリーファイはそんな彼女のドスケベパンツを掴み力任せにひん剥くと彼女の恥部が露わになった。

ペニスから分泌されたカウパーの媚薬効果でダバダバと愛液が溢れ、ぐちゃぐちゃとなった秘部がキュンキュンと音を立てチンチンを受け入れたいとサキュバスとしての、女としての本能が求めている。

「ああ……だめだめっ…駄目……っ！」

四の五の言わず、愛撫など無く、獣のように無情に突っ込まれたペニスがサキュバスリーファイの膣内を押し広げ、奥へ奥へと押し込まれ、子宮口を開くとそのまま腰を小刻みに振って長いペニスをむりやり押し込んだ。

途端に鋭い痛みと同等の快感がシナプスを通り身体中に広がり、全身を震えさし、小刻みに痙攣する。

性的なモノ・コトに強力なバフ効果があるからこそその快楽。

常人であれば内臓破裂する可能性だって大にあるケモチンであるがそこはサキュバスであり、暴力的な子作りセックスであっても獲物を食り付くような獣姦のアブノーマルな刺激がペニスを受け入れ、感じるために感覚を鋭く、淫らしく甘受する。

「あっ……いや……っ…だめなの……だめなのにい!!」

「はあ、はあ、はあっ……ふう……ふう……う……う……」

「あ……ああ……っ…あ……ああ……っ…」

女になったリーファイとの性的な遊びとは違う、ただただ子孫を残すための種付けセックス、いや交尾。

押し倒され、のし掛かるメスケモリーファイにとってサキュバスリーファイは只のモノと同じで彼女の瞳に自分は映し出されていない。

しかしそれも今は良いなど思ってしまうのがサキュバスとしての性。まるで全身が性感帯となって彼女のペニスを抜くような感覚。そしてペニスが大きく膨らむと熱くなって波を打ち始める。

「いいよ、出して……私に出してっ♡」

「うっ……ふう……う……う……っ……!!」

ピュルルと細く、勢いよく鈴口から粘度の低い精液が噴出され子宮を真っ白に染め、お腹を膨らませながら溢れた精液がジャバジャバと音を立てながら膣口から溢れ出す。

『こぼっ…こぼっ……』と音を出しながら溢れる精液が差し込まれたペニスとの隙間から排液されるが射精は止まることを知らず、確実に子孫を残すために暫く続いた。

そんなメスケモリーファイはまるで糸の切れた人形のようにサキュバスリーファイへ倒れ込み、息が上がり、イッた目のサキュバスリーファイはそんなメスケモリーファイに抱きついた。

射精はそれからも暫く続いたようでそれまでサキュバスリーファイは只々膣でチンポを挟み込みながら最後の一滴まで搾り取る。それはもうサキュバスの維持と誇りである。

こうして獣のようなセックスは終わりを告げ、気を失ったメスケモリーファイは浅い呼吸を繰り返しながら深い眠りの世界に旅立った。

「……やっぱリーファイちゃんは普通の女の子にした方が楽しいけど、やられっぱなしも腑に落ちないのよね……」

天ぷらはお塩でこそ素材の味がよく分かるのと同じで属性マシマシ山盛り天井にしたところでお腹いっぱいになるだけ気がついたサキュバスリーファイは隣で気を失ったように眠るメスケモリーファイの髪を搔上げ彼女の寝顔を覗き見ながら怪しい笑みを浮かべる。

相手は意識を失っており、今は何をしても起き上がることはないだろう。暴走したのは予想外であるが折角のメスケモリーフィちゃんだ。遊ばなくては勿体ない。

「まったく……そんなにすやすやと眠っちゃって。でも、私はまだ物足りないのよねえ……」

「だから、おもちやにした罰を味合わせてア・ゲ・ル♡」

次の日、元の一頭身の姿に戻ったリーフィは昨日の情事を覚えていなかったが全身筋肉痛でまともに動けなかったそうだ。

その隣でサキュバスリーフィのお肌はつやつやと輝いており、食卓には何故か新鮮な山羊のフレッシュチーズが並んでいたのであった。

■その夢はただの願望なのか？

著・水姫 七瀬

それは、リーファイが『男が女体化サキュバスにTSした絵』をツイッターにアップしたある日の夜のことだった。

「おっ！ 今日の絵は反応が良いなあ……。やっぱり女体化サキュバスものはみんな大好きだな！」

ツイッターに上げた画像に次々と感想が付いて、ついついにんまりと笑みを浮かべてしまう。そんな感想の中には、いつもお決まりのように『これってリーファイが体験したことだよ？』という返信の数々が……。

「って、実体験なわけないだろ！ 『リアルリーファイちゃんサキュバス化するのいつですか？』だと？ 『そんな日は!!! 絶対に!!! 来ない!!!』つと返信しとくか……。リアルで女体化なんかしたら大変だつての！」

リーファイはネタをネタとしてとらえ、笑いながら丁寧に反論の返信をした。「まあ、でも……。リアルで変身能力があったらつて思うことは、誰でも一回くらいあるはずだよなあ……」

そう口にしながらかベッドに倒れ込んだリーファイは目を閉じながら思う。

（ああ、変身能力があったら、もっと楽しいことができるんだろうなあ……）
布団を被って後は寝るだけ……のはずだった。

『そうか、それがキミの望みならば、ボクがかなえてあげようじゃないか』

どこからか声が聞こえて飛び起きると、いつもより遙かに視界が低く、自分の部屋の中であるはずなのに全てを見上げるような形で視界情報が目に入る。

「これは……一体どうなってるんだ？ これじゃあまるで、オレの身長が低くなったような……はっ!? まさか……!!!」

リーファイが慌てて見直し、ステテテとダッシュして姿見に駆け寄った。

果たしてそこに映ったものは……緑色をした一頭身のリーファイだった。

「どええええええええええええええええ!!? どうなってるんだこれえ!!!」

いきなり一頭身になっていたことに驚き、声を荒げるリーファイ。その真上か

ら『ぎゅむ』つという音と共になが踏みつけて笑いながら声を上げる。

「どうかしら？ あなたの望みを叶えてあげたんだよ？ 嬉しいでしょ？」

鏡越しに、自分を踏みつけた存在を見たリーファイが「は？」と声を漏らす。緑色をした一頭身になった自分を見事な尻に敷いていたのは、どう見ても美しい姿をした淫魔——サキュバスのお姉さんだったからだ。

「これは夢……でいいんだよな？ どうか現実じゃありませんで！」

「そうだねえ？ これは夢で、ボクは淫魔。ここはキミの夢の中だけだよ、キミの願望を叶えてあげたんだから、ボクにキミの精気をちょうだい♥」

サキュバスのお姉さんは色気たっぷりの声でリーファイに囁き、押し掛かる。

「……おやあ？ そう言えばキミは、その体でセックスできるのかなあ？」

「は……え？」

「この真ん丸ボディに、おちんちんは付いてるのな？ つて言ったんだよ」

「なっ……どわあああッ!」

絶句するリーファイにサキュバスのお姉さんが手を伸ばすと、一気にひっくり返す。それは俗にいう、『ちんぐり返し』という体勢なのだが、残念なことに

『一頭身』であるリーファイにはちんちんは付いていない。大事なことで二度言うが、一頭身のリーファイにはちんちんは付いていないのだ!!

「おやおやあ？ やっぱりおちんちんは付いていないのか、残念だなあ……」

残念そうにため息を吐きながら、リーファイの体に豊満な胸を押し付けながら押し掛かり続けるサキュバスのお姉さん。ぐりぐりと押し潰されるリーファイ。

「でっ、も！ この触り心地の良いボディは気に入っちゃった♥ よくし、こ

れからキミは、ボクの抱き枕に任命してあ・げ・る♥」

「なにを言ってるんだ、そんなの絶対にイヤだあ!!」

ジタバタもがいて逃げようとするリーファイだが、サキュバスのお姉さんの力の方が強く、その『魔の手』から逃れられない。目を覚ますまで散々抱き枕としてあそばされ続けたのだった……。



ハッと目を覚ましたリーフィが勢い良くベッドから跳ね起きる。

「……なんだ、夢か……」

安心しきった声で咳いた後、安どのため息をこぼした。

「一休なんだったんだよ、今日の夢は……。散々過ぎるだろ……」

サキュバスのお姉さんにずっと抱き枕にされたまま、手も足も出せずに一晩を過ごす苦痛、それが分かるだろうか？ 男性諸君なら分かるだろうか？ 美しい女性に押し掛かれてるのに、手も足も出ない辛さを……。

「ああいうのも、悪夢とか言えるのかな？」

小さくため息を吐いて着替えて顔を洗い、家族と一緒に朝ごはんを食べ始めるリーフィ。そんな彼を家族たちが心配そうな顔をして見守る。

「ねえ、大丈夫？ あんた、顔がいつもより丸くて緑色をしてるわよ？」

リーフィは母親のそんな言葉を聞いて「人間の顔が緑色になるわけがない」と考えながら「そんなまさか」と笑って見せる。

「それじゃあ、行ってきます」

朝食を食べ終えて家を出ると、そこはいつもの日常だった。

いや、はずだった。

顔を合わせる知り合い全員から、『今日は顔色が緑だけど大丈夫？』と口々に聞かれ続けられると、さすがに不安になって来る。

(もしかして、気付いてないだけでマズい病気にでもなってるんじゃない……)

そんな不安を感じながら、リーフィは今日もいつも通り過ごし、夜にはツイッターに画像を上げて風呂に入り、寝てしまった。そして――。

そして気付くと、昨日の夢と同じ場所に立っていた。

「こんばんは、リーフィちゃん」

背後から声が掛かると共に、誰かが背中に押し掛かる感触がした。

確認するまでもなく、昨日の夢に出て来たサキュバスのお姉さんだった。

「なになつ、なんで？ あれは夢だったんじゃない……」

「そう、昨日のことは全部が、ゆ・め・の・な・か！ そしてここもね？」

「……まさか!？」

ハッとしたリーフィが、慌ててステテテとダッシュして姿見に駆け寄ると、鏡に映った自分の姿は『緑色をした真ん丸な・頭身のリーフィ』だった。

「なんでまた・頭身になってるんだよ!!？」

絶望に染まった絶叫を上げたリーフィの上に、ぎゅむつと重みが生まれる。「言ったでしょ？ キミを気に入ったって。だからまた来たの、よろしく♥」

「NO~~~~~!!」

悲鳴を上げるリーフィ。しかし、彼には逃れる術はなく、延々と抱き枕にされ続けることしかできない。そしてそれはサキュバスが飽きるまで続くのだ。

これが、日二日なら耐えられる。

しかし、三日四日と続くと話は別だ。日に日に顔色が『緑色』の変色し、丸くなっていく上に生氣を失っていく。

そんなリーフィの姿に、リーフィの家族も心配する。方で……。

「大丈夫？ 病院に行った方がいいんじゃないの？」

と、心配そうに声を掛けられるようになっていく。

「いい加減にしる！ もう・週間だぞ！ 毎日毎日抱き枕にしがたって！」

「えく？ いいじゃない。キミの願望をかなえてあげたんだよ？ 某ゲームキャラに似た『変身能力がある姿』にしてあげたんだから付き合っつよ♥」

耳元で囁かれた言葉。それを聞いた瞬間、リーフィの頭に閃きが生まれる。(そうだ、望んだ体になったのなら吸い込んだんじゃないやね?)

リーフィはすぐに大きく口を開けてサキュバスのお姉さんを――

「へ？ ちょっと、うわああっ!! 不意打ちはらめえっ!!」

「ごっくんっ!!」

――。気に飲み込んだ。その瞬間リーフィの体が光り輝き、変化していく。

「ははっ、これで解放された！ オレは解放されたんだ！」

嬉しくなって小躍りをし始めるリーフィ。しかし、直後に自分の胸部がゆきゆきと揺れることに違和感を覚えて固まった。

「まさか、まさかまさかまさかっ！」

ひとつの可能性に思い至り、姿見に自身を映すと、頭に植物の葉っぱを生やしたような緑色のロングヘアをした可愛らしい淫魔の女の子の姿が――。

「これって、いつも冗談半分で描いていたサキュバスリーフィじゃねえか!!」

「ああ、やっちゃったね? とうとうやっちゃったね?」

耳元で囁やかれて驚き、振り向くとサキュバスのお姉さんが立っていた。

「言ったよね? キミの願いをかなえてあげた、って。もちろん、その体には吸い込んだ相手をコピーしちゃう能力もあるに決まってるでしょ」

「なっ、なんで吸い込んだのに……!?!」

「だってココは夢の中だよ? ボクたち淫魔には生死さえも自由自在なのさ」

「そんな……。でも、ここはオレの夢なんだからオレの自由に――」

「残念、淫魔の本能は序列に忠実だね? ボクはキミの親のようなものだ。だから当然、キミはボクに夢の中では逆らえないのさ、あはははははっ♥」

哄笑とも言えるような笑い声をあげながらサキュバスが歩み寄る。

いや、本当にサキュバスなのだろうか? その姿が、輪郭がどんどんぼやけてはじめて、顔つきは可愛らしく、休つきは中性的なものに変化していく。変化が終わると色気のあるお姉さんではなく、少年のような中性的な体つきに変化していたが、股間には中性的な体つきに似合わぬ巨根が聳えていた。

「ああ? 驚いた? でも仕方ないんだよ? ボクたち上位淫魔は夢の持ち主にとっての『異性』の姿に変化してしまうんだ。今のキミは女の子だからね」

ねっとりとした嫌なものを感じてリーフィの顔が引き曇る。

を本能で悟ってしまった。『それ』は男が女に対して抱く猥欲である、と。

「どうしたの? 顔が引き曇ってるよ?」

「ひっ、近寄るな! オレは男だ! 男なんだぞっ!」

「いくらキミが男だって言い張っても、今のキミの体は淫魔の女の子だ」

顔を引き曇らせながら後ずさるリーフィを、面白そうに追い詰める淫魔。

「ふふっ、その恐怖に引き曇った顔、可愛くて食べちゃいたいくらいだ」

「ひいっ……あっ――」

小さく悲鳴を上げて、一気に距離を取ろうとしたリーフィの足がなにかにぶつかり、後ろに倒れてしまった。

とさつと乾いた音を立てたのはベッドだった。

「ふふっ、ボクを誘っているのかい? 淫魔になったばかりなのに淫乱な子だね? しょうがないから、先輩であるボクがキミを調教してあげるよ」

淫魔はベッドに倒れ込んだリーフィに覆い被さり、手を掴んで拘束した。

「ひっ……あっ……れ?」

淫魔に押し倒されたリーフィは小さく悲鳴を上げながら警戒心を露わにした。いや、したはずだったのに、下腹部から湧き上がる熱い情欲に戸惑う。

「な……んだ? オレに、なにをっ! なにをしたんだ!」

「ボクはなにもしていないよ? ただ、可愛いキミを見つめているだけさ」

それは確かに本場で、身動きの取れないリーフィは顔を見つめられただけで。それなのに、目の前の淫魔の瞳を見ているだけで情欲の炎が燃え上がる。欲しい。

この雄に抱かれない。

この雄の欲望に塗れて溺れたい。

(いやいやいや、そんなことあるわけない! オレは男だ、男なんだぞ!)

湧き上がる情欲、いやその言葉では生ぬるい程の激しい性欲に抗うリーフィ。その頬を撫でながら、そっと淫魔が囁く。

「それが淫魔の本能だよ。大丈夫、キミはもう人間じゃない。淫魔なんだから、その欲望に身を任せちゃえばいいんだよ」

正に悪魔の囁きであったそれを耳にして、リーフィの理性が揺さぶられる。

「はっ……ああっ、嫌だ……。嫌なの……。はっ、はあ……んんっ♥」

——こぶり……こぶり……

必死に衝動に耐えているはずなのに下腹部の奥が勝手に震えて、ぬるぬるとしたモノが体の奥から溢れ零れて股間を濡らして行くのがわかる。

(なんでこんなっ！ オレは男、男なのに——)

「はは、口では嫌がってるみたいだけど、本能に勝てるわけがない、ほら！」

——ぐちゅりっ

「んああッ♥」

いきなり淫魔の指が、リーフィの股間にできたばかりの淫裂に沈み込む。

「あはっ♥ ちょっと指を沈み込ませただけで可愛い声を上げるなんてさ」

——ぐちゅっ、にちゅっ、ぐちゅくちゅにちゅっ……

「あっ、んんッ♥ ひいいッ♥ あっ、ああっ♥ いっ……やだあッ！」

嬉しそうに笑みを浮かべながら淫裂の中を探り、肉芽を激しく擦り上げ始める淫魔。たったそれだけのことなのにリーフィの腰が震え、跳ね上がり、歯を食い縛りながら必死に湧き上がる欲情に抗う。それでも耐え切れずに、口から嬌声が漏れ出てしまう。

「あふううッ♥ んんっ、ぐっ……あっあああああッ♥」

とうとう淫魔の指がリーフィの膣内にまで忍び込み、肉襞を撚る様に蠢く。

「あっはあっ……んっ♥ きっ、きついいッ！」

腰をかくがく震わせながら声を上げると、淫魔は小さく笑いながら「まだだったの二本しか入ってないよ？」と楽しげに囁く。

(ウンだろ……？ こんなに違和感がハンパないのにまだ二本だっ?)

信じられない気持ちを抑え切れず、自分の股間を見る。

淫魔がニヤニヤと笑みを浮かべながら自分の膣内に突き刺している二本の指

を、これでもかと思える形で見せて来る。

「このままボクのを挿入したら、壊れちゃいそうだねえ」

「ひっ——、嫌だあ!! それだけは嫌だあ!!」

言葉の意味を理解してベッドの上を這うように逃げ出そうとするリーフィ。

しかし、淫魔は笑みを浮かべながらがつしりと腰を掴んで引き寄せた。

「可愛いお尻を振りながら見せ付けつけるなんて、後ろからされたいの？」

「ひいっ、違うっ！ ちがっ——ああっ!？」

掴まれた腰を振りながら必死に逃げようともがいていたリーフィが、驚きの混じった艶やかな声を上げてしまう。淫魔が腰に纏わりついて指を膣内に挿入し、指を強引に挿入したからだだった。

——じゅぶっ！ にゅぶっ！ ぢゅぶっ！ にゅちゅっ！

「あっ、ああっ！ やめっ、ひいっ、広げるなあ!!」

「ははっ、広げないと意味がないじゃないか。これはキミが挿入されても痛くないようにって、親切心でやってることなのに酷いなあ♥」

「そんっ、にやあッ♥ あっ、ああっ♥ これっ、ダメえッ!!」

ぐちゅぐちゅと激しい音を立てて股間で淫魔の指が蠢く度に、リーフィの背中をゾクゾクと快感が駆け上がって来る。

「ああっ、嫌なのに、どうしてこんなに気持ちっ——ひいひいッ♥」

ぐちゅりとひときわ大きく音を立てて、淫魔の指がリーフィの膣内をかき回しながら肉芽をぐりんとこね回す。

それだけで大きく腰が跳ね上がり、嬌声を上げてしまうリーフィ。

(なっ、んだよこれ……。こんなの無理だ、耐え切れない……)

最早成す術無く、淫魔の指に翻弄されて息も絶え絶えだ。

「やっ、あっ……ああっ♥ いッ……やだっ！ このっままじゃ!？」

限界が近くてかくがく震えるリーフィの耳元に囁かれる淫魔の声。

「いきそうなんでしょ？ ふふっ、イっちゃいなよ」

その声と共に、より一層激しくなる淫魔の指の挿入運動のせいで、リーフィ

は大きく背中を仰げ反らせる。

「あつ、ああつ♥ やつめえっ!! イクつ、イツつぐうぐうぐう♥」

——ぷしやしやしやしやしゅー!!!

弓なりに体を激しく仰げ反らせながら嬌声を張り上げ、股間から透明な飛沫を噴き上げた。

「あつ…ああつ…:…♥」

下腹部が痙攣し、雌の濃い匂いが立ち込める中、リーフィは自分が雌としての痴態を淫魔に晒してしまったことに絶望して涙を浮かべた。

「あははっ、初めてにしてはすごいイキっぷりだね? 可愛いねえ」

嬉しそうに笑う淫魔の声を聞きながら、余りにも理解が及ばない事態と強制的に与えられた快楽に耐え切れずにリーフィの精神がシャットダウンを始める。

「あくあ、もう限界なの? もうちょつと淫魔として教えてあげたいことがたくさんあったのに、しかたないなあ……」

ぐったりとしたリーフィの頬をねつとりと舐め上げる。

「まあ、キミはすでにボクの眷属だから、これから時間はたっぷりあるし、しっかり淫魔として調教してあげる! 心も、『体』もね♥」

淫魔の囁き声が終わる頃にリーフィの限界が来て意識が途切れた。



いつもより力が入らない状態で、ぐったりとしながら起き上がるリーフィ。カーテンの隙間から日の光が眩しく差し込んで爽やかな朝のはずなのに、下半身がぐっしりと濡れていて不快感を酷く感じる。

「あくあ、これはやつちまったかなあ?」

この歳になってオネショ、ということはないはずだ。ということ、思いつきり夢精しているのかもしれない……。

(くそお、あの夢のせいだ! 絶対にあの夢のせいだ!)

下半身にまとわりつくほどの不快感だ、どれほど派手にやったのかと恐る恐るバジヤマのズボンを引き下げて下着の中を確認する。

(……は? え? なんでだ? どうしてないんだ!?)

下着の中には見慣れた男のシンボルのモノが影も形もなかった。「なつ、うっああつ……うわあああああああああッ!」

それどころか、下着の中の湿り気にはイカ臭さはなく、むせ返るような甘い雌の臭いで、どう考えてもこれは愛液のそれだ。

「オレが、女の子になつて……? そんなバカな……」

混乱しながらベッドから起き上がり、鏡を覗き込む。

その鏡に映ったのは、いつも見ていたはずの男の姿はなく、すらりとした細身の中性的な顔立ちをした緑髪の少女が映っていた。

(あ……れ? オレって、こんな姿だったっけ?)

『そうだよ? キミは元からこんな顔をしてたんだよ?』

耳元で誰かが囁いた直後、ぼんやりと頭に霞がかつてくる。

「そうだよ、オレは前からこんな顔をしてた——わけねえ!!」

抗うように声を上げると、夢の中の淫魔が鏡の中に姿を現した。

『強情だなあ、さつさと認めちゃえば楽になるのに……』

「これは、オレがこんな体になつてるのはお前の仕業か!」

『んく? 半分正解で半分ハズレかな?』

淫魔はニヤニヤと笑みを浮かべながら曖昧に答える。

『キミは集合的無意識って言葉を聞いたことがあるかい? 最近ではゲームや小説にも出てくるみたいだけど……』

「それは……聞いたことがあるような……」

リーフィはとあるソシャゲーのことを思い浮かべながら頷く。

『夢や空想、幻想や神話の原型は、人の無意識下にある領域、集団的無意識に存在するってヤツ。ボクたち淫魔もそこに住んでるんだけど、この領域の中で

変化を起こしたものは現実でも影響が出るんだ」

淫魔はニタリと笑みを浮かべてリーフィの体を舐めるように見る。

『例えば、そこで体が女の子に変化しちゃった場合は……とかね♥』

『そんな……ウソだろ？　じゃあオレは……オレはこのまま女に？』

『アフターケアもぼっちり、ボクが立派な女の子にしてあげる♥』

淫魔はそう言って、溶けるように鏡の中へと消えて行った。呆然とするリーフィをそのまま置き去りにしたまま……。

「おっ、女に、女になってたまるか……!!」

リーフィはギリギリと歯を食いしばって固く決意を口にした。

◆◇

——現実のリーフィの体が『女』になってから七日七晩過ぎた。

「どう？　そろそろ抵抗をやめて女の子になったら楽になるよ？」

「はっ……はあ……んう♥　ふう……ふう……んんっ♥　だれっが……あっ♥」

拘束されたままの快樂責めで見悶えながらリーフィがキツと睨む。

初めは固い決意を原動力に、必死に淫魔を睨みながら耐えていたリーフィだったが、次第に氣力を削がれ、快樂に屈服しようとしていた。

というのも、夢の中では淫魔に主導権を握られ、胸を揉まれば大きく膨らみ、尻を叩かれれば大きくなり、撫でられれば敏感になっていくのだ。当然、それは現実にも影響を及ぼして休付きはすっかり女

らしくなり、どこからどう見ても女になってしまっていた。

「ふふっ、一週間も頑張ってガマンしてるもんね？　辛くない？」

「うっるっ……しゃいっ！　あっ……あっ……らめっ、やめるおッ♥」

激しく膣内を指で抉られる快樂に嬌声を上げてしまいうリーフィ。

この一週間、口答えするたびにずっとその繰り返しで、勝手に体は快樂を貪欲に求めて震えながら腰を浅ましく振ってしまふ。

(ああ、どうして？　どうして指ばかりなんだよお……)

連夜の責め苦に焦らされ、もうリーフィは欲求不満で潰れそうだ。

そこにひと押しでもされたら後は転げ落ちることは確定的で——。

「腰を振って強請るなんて、そんなにコレが欲しいのかい？」

ニタリと笑みを浮かべた淫魔が大きな肉棒を見せ付けるように揺らすと、リーフィの目がソレに釘付けになってしまう。

「欲……しい……。もう指じゃ満足できないんだよお……」

口から出たのは敗北を決める決定的な言葉。それを耳にした淫魔は笑みを浮かべてベッドに横たわったリーフィの腰を引き寄せた。

リーフィの愛液で濡れそぼった股間に熱い肉棒が触れる。

「あっ、ああっ……♥　当たってる……これで、はあはあ……♥」

一週間に渡る生殺しの苦痛から解放されるなら、と安易な考えが浮かんでしまふ程に今のリーフィには理性と余裕が残されていない。

「さあ、リーフィちゃん。ボクにどうして欲しいのかな？」

「ああ……。欲しい。ソレを、オレの膣中に挿入してくれえ……♥」

とうとう欲望のままに敗北を口にした瞬間だった。

——ずちゅんっ!!

「うぐううっ♥　ひっ、んひいいいんッ♥」

一気に子宮を突き上げるほどの一撃にくぐもった声を漏らし、直後に感じた引き摺られるように抜かれた肉棒の感覚に嬌声を上げる。

「あらら？　初めての挿入なのに感じるなんて淫乱だなあ……」

確かにリーフィの体は『処女』であるはずなのに痛みも感じずにすんなりと受け入れてしまっていた。

しかし、楽しいげな声に指摘されたそのことに対して疑問を覚えられるほど理性は残っていなかった。

「ほらほら、まだ挿入れたばかりだよ？　これからが本番だ——」

——ずちゅんっ！　ずちゅんっ！　ずちゅんっ！

リーフィが悪夢の中で淫魔に犯し続けられて淫魔に堕ちて目覚めると、現実でもリーフィという存在は『可愛い女の子』になっていた。

それでも、これまでの生活を変えずにネット上では『リーフィ』として過ごしている。

好きなTSネタのイラストをネットに上げ、親しい知り合いに『リアルリーフィちゃんがサキュバス化するのはいつですか?』と絡まれては「オレがサキュバスなはずないだろ!」と答える毎日……。

それでも、サキュバスになったリーフィに変化はあった。

最近、リーフィは積極的にオフ会に参加を繰り返し、更に女になった自分を積極的に配信サイトで『顔出し配信』して晒し始めたのだ。

『そんなに疑うなら今度オフ会で会って確かめればいいだろ!』

艶やかな笑みを浮かべながらそう返信して舌なめずりする。

「ふふっ、今度のオフ会楽しみだなあ!」

魂を『サキュバス』という存在に染め上げられたリーフィは、オフ会に参加する度に参加者の男たちを魅了していった。

少年らしい中性的な性格で女らしく気取らずに、友達のように男と気安く肉体的な接触をする美少女に男が靡かない訳がない。あつという間にオフ会常連にまでになって『姫』の地位を確立してしまった。

そして――。

「楽しみだなあ、最近みんな優しくしてくれるし、それに……♡」

そしてリーフィはいつの間にか、オフ会参加者にお持ち帰りをされ続けて、精を搾取する本物の淫魔へと覚醒していくのであった……。

(お・し・ま・い♡)



「――って感じのエピソードが、サキュバスリーフィちゃんの背景設定にあるんだと思ってるんだけど、どうかな? チラッチラツ――」

……。

この後リーフィちゃんにすごく怒られました(オワタ)



あー！
女の身体は
何かと金がかか
るなあ
なにか簡単
に金を手
に入れる方法
は？

おっ？

ワイルドファイターのアルバイト体験

作者:三日月ネコ



食べるだけで
お金ももらえ
るなんて楽だ
な！

そうだね
お腹いっぱい
になってもら
うからね

へーお金が
なくてこの
バイトにき
きたんだ！

じゃさっそ
く食べてもら
おうかな

はいなんか
カメラの前
で食レポを
するんです
よね？

HAPPY END





あなたは本当に男に戻りたいのかしら？

誰だ!?

スッ...



くそう早く男に戻らないと

俺の名前はリーフィ
こんなナリだが本当は男だ！
ある朝起きると
こんな姿になっていた！

リーフィさんは本当は存在してなくてTSF好きの生み出した概念なのではないか。それを証明するにはこの漫画のページ数は短すぎる。 by いるこ (@ill_188)



私は鏡の中のあなた：
あなた、本当はこんな姿を
望んでいたんじゃないの？

わかるのよ私には
だって私はあなたなんだから

違う、俺は！

それにせっかくかわいい
女の子になったのよ
元に戻る前に一回くらい
楽しんでいいんじゃない？

ゴクッ



俺!?

フッフ

!?

自分を偽り
窮屈に生きるニンゲンの心へ
私は問いかける



どんなに強がっていても
ホントウノキモチには逆らえない…
そう…きつとあなたも…



やられた

お前だけでも
逃げる…っ
リーファイ!!



優しい勇者様ね♡
やられた仲間の為
かばうだなんて



クス♡

仲間想いななのね♡
『この世界』の勇者…
気に入ったわ
これは親愛の印よ♡
私の仲間になりなさい

死んでも嫌だぜ!
今に見てるッ
すぐ逆転して…



『淫魔の種』よ♡
私の魔力が根を張り♡
淫魔に変える新秘術♪

そう言わずに…ね♡
素敵な種だから
『植えて』あげる♡
な…何の種だッ!?

素敵な華になってね♡
仲間想いの勇者様♡

トク…トク…トク…

スフフ…♡



淫魔のカラダに
整えてあげる♡
まずおっきな
おっぱい...♡



淫魔の...おまんこ♡
素敵なお姿よ...?
でもまだ完全じゃない
あなたに必要なものそれは



可愛いイキ顔♡
男として自覚ある？

ちがっ…ましゅ♡
俺…『私』…淫魔っ♡
えっちな淫魔でしゅ♡

オヘッ♡

ち…違う!!
だって…

へっ♡
つまり私の仲間ね？

この素晴らしい身体の為なら♡
えっちなことも悪いことも♡
なんでもしちやいますっ♡

私はご主人様の♡
ただの下僕♡
服従する下っ端淫魔です♡

モン♡



ならそこで寝てる
あなたの大切な仲間を
淫魔にしなさい♡

そしたら…

えっちなご褒美あげる♡
どうする？

仲間か…快樂か♡

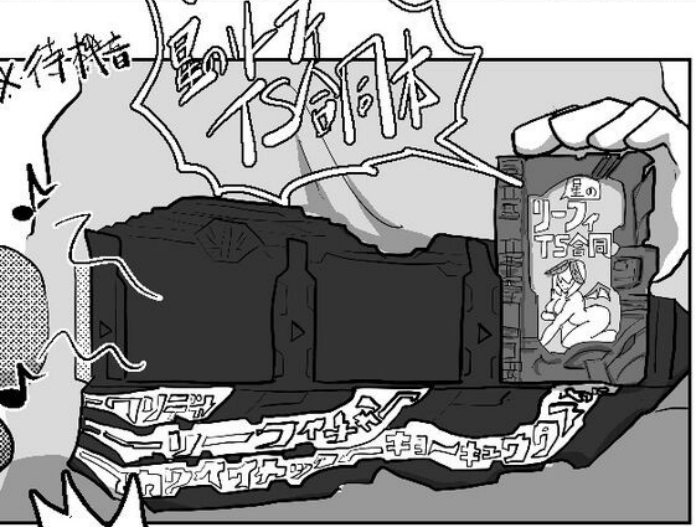
…キャハッ♡
見ててご主人様あ♡

とろとろおっぱいで彼を拘束し♡
淫魔の魔力で覆い身体を整え♡
彼が私と同じ末路を辿るのを…♡

ご褒美の為♡
お前だけは
逃がさないから♡

やん？
やわい!

ズププ…





あら、可愛い子が
いるじゃない♡

ぴゃっ!!?

むぎゅっ♡



オイ…これ
ちゃんと元に…

いねえ!?

こっせん

ポッ!!

女になつて…



ねえねえ?
戦いなんかどうでもいいし?
一緒に気持ち良くなならない?

んなっ…!!?
お、俺は男だ!

あら?
そうなの?
なら女の
気持ちよさを
いっぱい教えて
あげるわね♡

あ、あぁ…!!?
やめっ…!!?
♡♡

♡♡

むぎゅっ♡

アァァ

数日後…

うわーっ！
ヴィランだー！
逃げろー！！
モゴ

そうね♥
それじゃあ今日も
沢山暴れて
楽しむわよ♪

ふふ♥逃げ惑う市民を
見るのは楽しいですね
お姉様♥

ぷるん♥

はいっ♥お姉様♥
リーファイ頑張りますっ♥




「ローファイくんが
メスローファイになるだけ〜

Presented by delta-TSF
(Jupiter D Zweistein) @DZweistein

かわいいリーフィくんを
性転換しちゃうぞ♥



男の子になってから
女の子になろうね♥



おっぱいがふくらんで♡



おしりもおっきくなーる♡

これで
リーフィくんは
女の子♡



ぐえっへっへ

やったね♡

コラ!!

俺を
女体化しようと
する悪者め!!

くっ!
バレたか
さすがは
リーフィ!!

カッコいい
リーフィめ!!

見え透いた
お世辞はノーセンキュだぜ
でもありがとう!!

ふふふ
バレたか
これを食らえ!!

ご都合女体化
&
くすぐり
アームの術

は??

は??

TSエネルギー：20%

敵の罠に落ちた
リーフィちゃん!!
一体どうなってしまうのか!?
次回『リーフィちゃん死す!』
(ふをません!!)

TSエネルギー：80%

◆あらすじ トランソードの真の力を開放したリーフィ。その反動でえちえちサキユバスになってしまった。そうまでして勝ちたかった敵とは…



賢いキミなら
状況が解るネ



そんな……オレ
オトコを捨てて

ここまでしたのに
歯もたたないのか……



さあ、これで
おしまいに
しようじゃないか

毒の匠

Root 4

豆知識：トランソードは斬った敵を变身させられる剣だ！
ただ使用者も魅力的な体つきになるので注意



リーフィさん
麻酔うちますねー

ふ、ふあい…

リーフィ
虫歯完治まであと4本

リーフィちゃんの えっちな日常

作・絵 daice

この頭から葉っぱの生えた女の子は
元々男だった俺の同居人だ。



わりーわりー。
飲み会で遅くなった。

もーっ遅くなるなら
俺にも連絡いれろよ。
待ってたんだから！

しんが

おーんおーん

おがえんし



おっ
♪

ぬぎ

ぬぎ



…ひとりだえ…
えっちなことしてたり…
物足りなくなっちゃって…

ドキ
ドキ

ほ
い
る
ん
ぐ

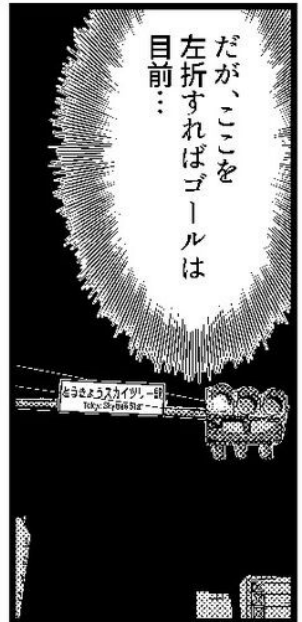
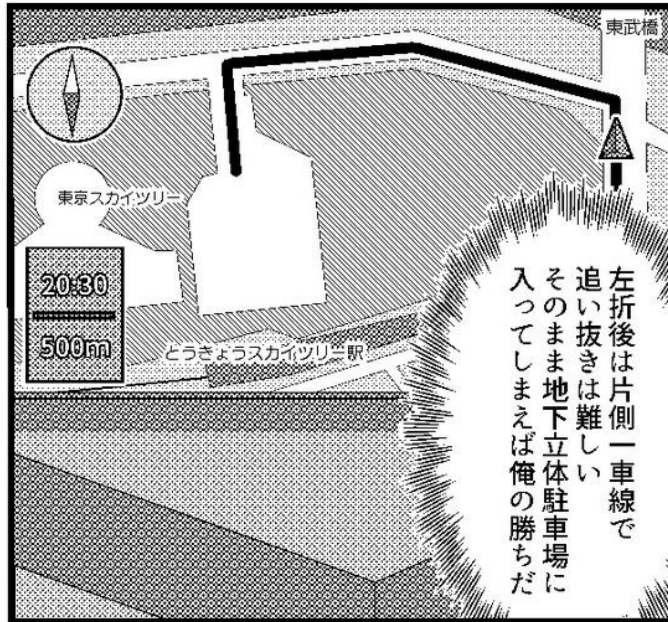
そ
う
し
て
な
ら
ば

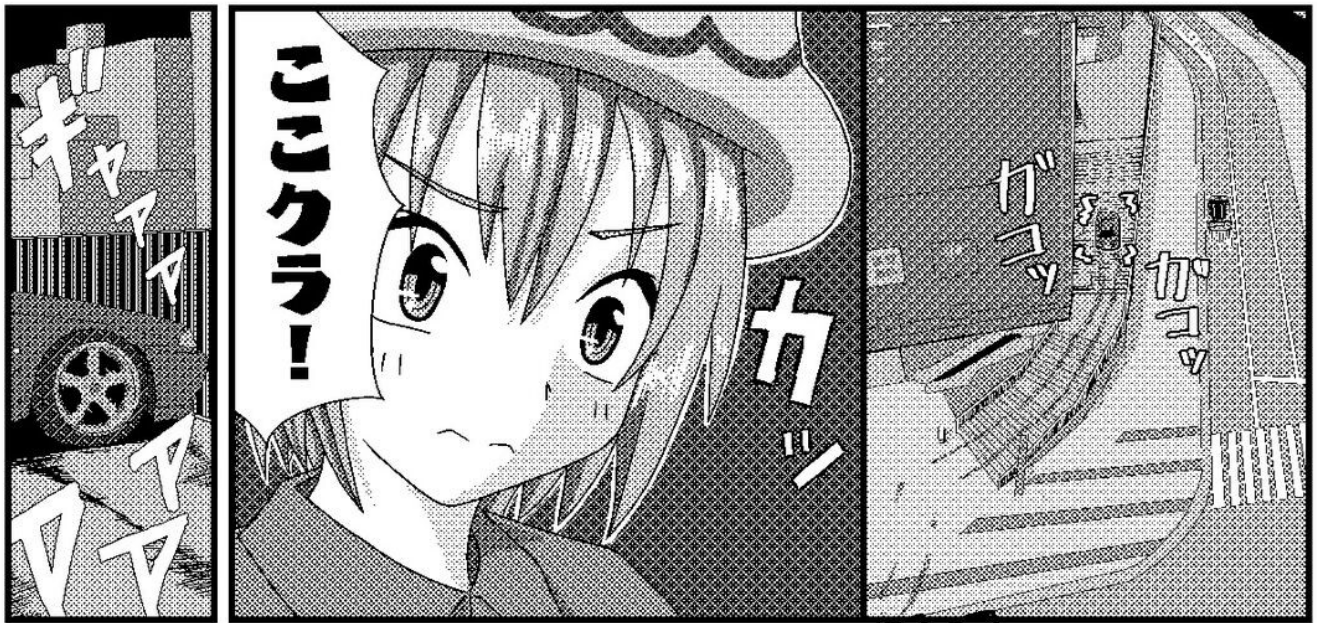
あーやっとな帰ってきた？

◆ 甲高いスキール音が静寂なスカイツリーに響く!!!



この物語はフィクションであり、登場する人物・地名・団体名は全て架空のものです。車の運転は交通ルールを守り、安全運転を心がけてリーフィさんの女体化を楽しみましょう。





とりあえずどこかに車を停めて
店に急がないと!!



某カフェ
20時50分頃...

すみません
ラストオーダー前で
満席のため
ご案内する事が
できません...



ガーン

おーい
はっばあ

一緒に相席で
食べようぜ



今度は、絶ツツツ対に
負けねえからな!!
見てろよな!

言ってる、言ってる
次も俺が勝つ



◆クラリーは、いいぞ!

完

これまでのあらすじ
突如現れたド変態露出痴女のサキュバスリーフィに「若き日の私よ」と言われたリーフィ。
このままではド変態露出痴女のサキュバスになってしまう。そんな未来を変えるべく、
リーフィの「最高最善のTS娘」を目指す戦いが始まる。
祝え！真のサキュバスの誕生を！

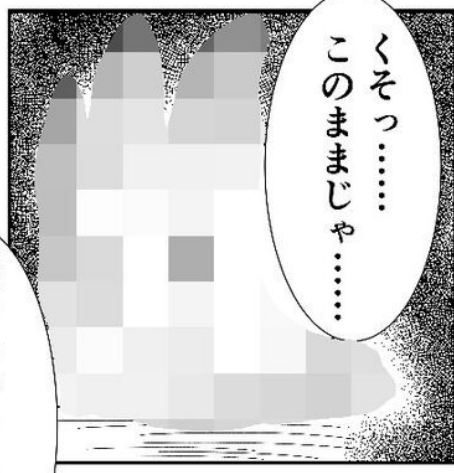


※この漫画はギャグ漫画です

なんやかんやあって
リーフィは悪の組織に
追い詰められていた。



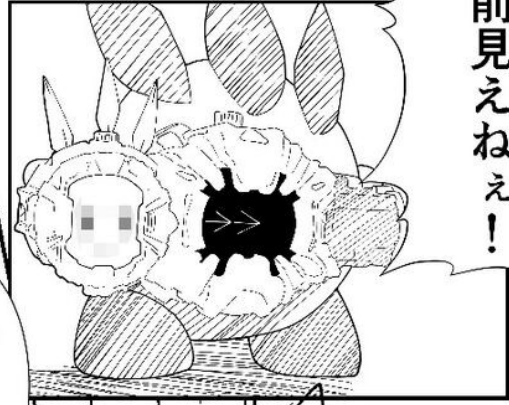
くそっ……
このままじゃ……



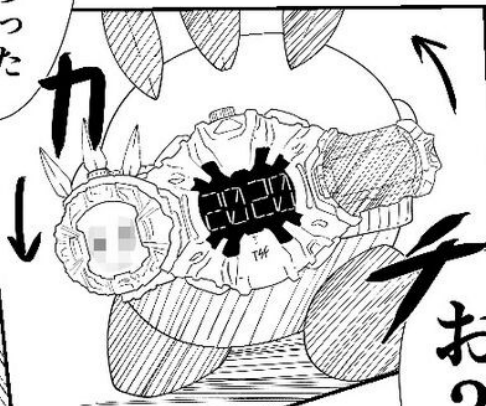
変な男からもらった
このベルトで……



前見えねえ！



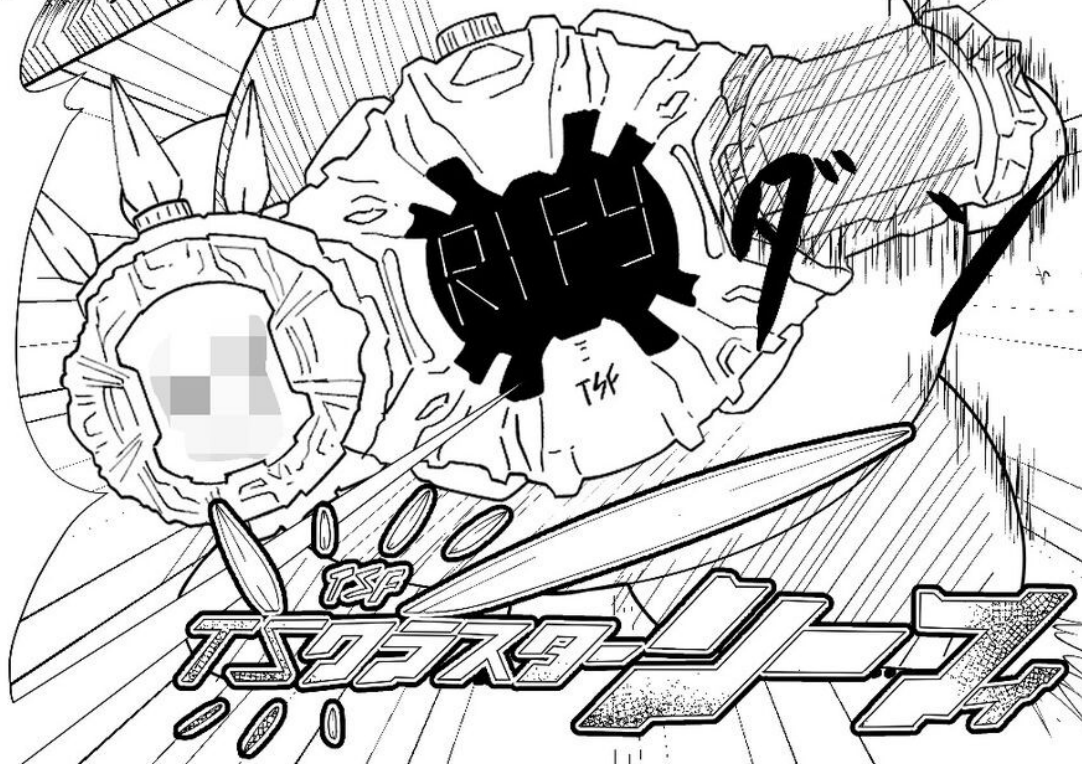
お？

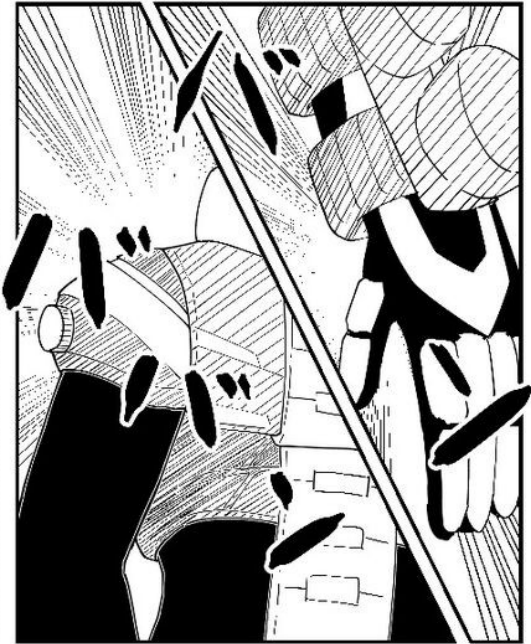
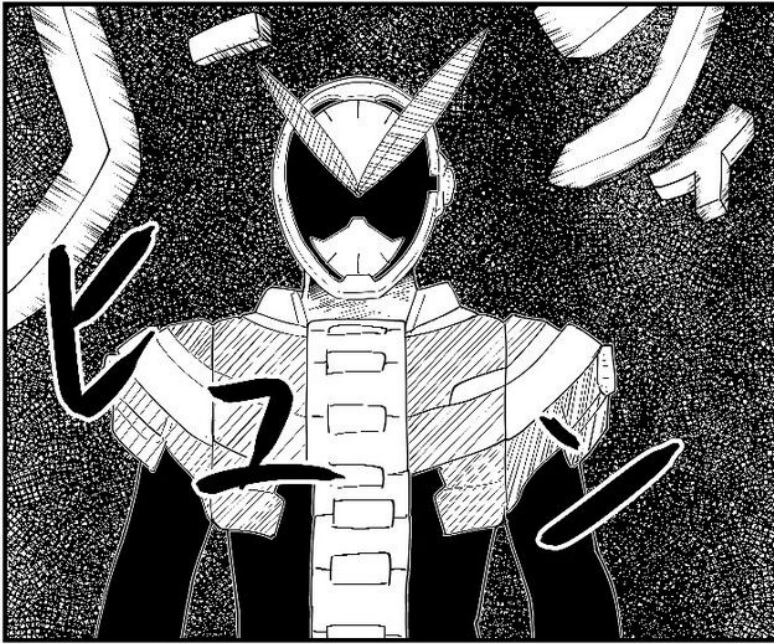


回るの俺かよ！



タイム

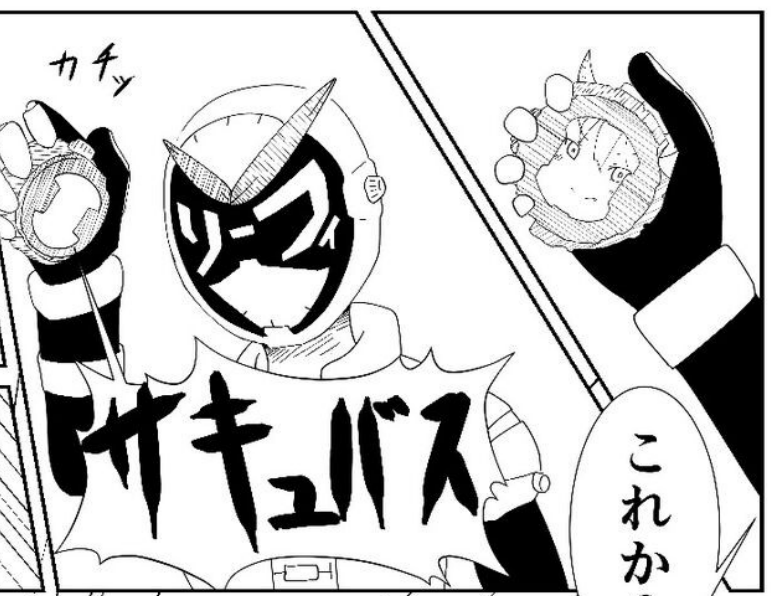
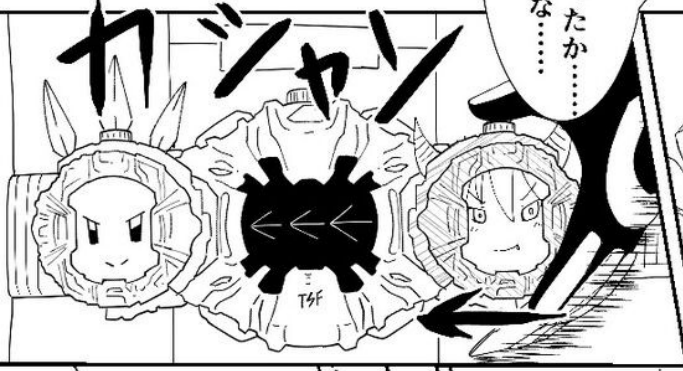




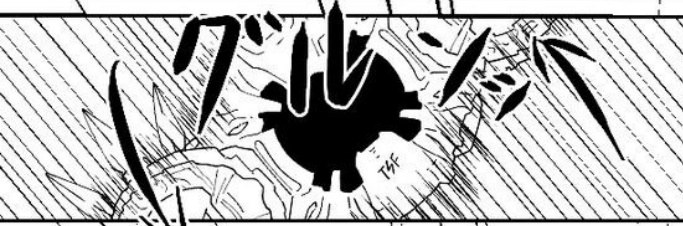
サキュバスアーマーなら
即死だった……

ほんとになってるわ……

くっ、適合者だったか……
だが危なかったな……



これか？



よしっ！



カッ

はあっ!?

ぐああああっ!?



多分……
これか?

くつ……

だが俺は
ロリコンだから
そんなもの

ロリーファイ?

ロリーファイアーマーなら
私も即死だった……



ロリーファイ

えええ……

あああああああ
あああああああ
あああああああ



END



くそっ...



また...
こんな...

おははは...



この都合
びーむ!!

うんてんてん

導入も
技名も雑!



ん〜♡

相変わらず
可愛く
なつた
じゃない♡

うんてん

お前エエ...



いい加減
遊ぶんじや
ないで
えええ!!!

え〜?

ふんげんた

楽にさる

んんん

んんん

もう、
そんな怒ら
ないでよお…

アナタ好みに
大きくも、小さくも
なれるんだから♡

もちろん、
そのままでも
いいわよ♡





どんないアナタも
かわいいわよお♡





美少女王への道

作・しるがらげ



俺は勝って絶対に男に戻ってみせる…!!

ここまでで沢山の強敵達と戦ってきたがこれが最後…

これに勝てば何でも願いを1つ叶えてもらえる…

…ついに来たぜ
美少女一武闘会…決勝戦



見るからに真っ向から戦うタイプではない…
こういう相手には…

気絶もしくは武舞台から10秒以上姿が見えなければ敗北…油断はできないな…



…ッは!?

それはどうかな♪

このッ
攻撃で終わらせるッ

最初から全力でッ!!
ぶつけるッ!!

はああッ!!



ん...?
動きに違和感が...

...クソツ!!

いつの間に...!!

あら身体の変化に
気が付いてないの?

何だと!?

あ
こ



俺の身体に
何を...

あ
こ



良い大きさに育ったら
眷属にしてあげるわ♪

胸が膨らむ呪いよ
これからどんどん
大きくなるわ

おまつ
サキユバス
リーファイ!?



さあて...そのおっぱいで
ちゃんと戦えるのかしら?

うぐツ...!!



っとうおおおおい!?
何か胸が少しだけ
デカくなってるんだが!?

!?

胸を大きくされる事で
身体バランスを崩されるのは
致命的だと…私は思いますね…
はい

これは…
不味いですね…

どう見るオロミチ
この試合

ああ…

彼女の戦術は
その身軽さから
繰り出される体術

ざわ…
ざわ…

卓怯な!!

これじゃあ
胸が重くなっている
リーフイじゃあ攻撃が…

私は空に逃げさせて
貰うわね♪

安全に勝たせて
貰うわ

じゃあそのお胸が
パンパンになるまで…

……っ

何…?あの構え…
隙だらけに見える…
全く隙がない…
でもあの娘じゃ
私の所に攻撃は…

届かな…
ん…?

あら…諦めて
勝負を投げちゃった
のかしら?



何でここまで…
それに…速い!!

嘘っ!?

!?

くっ…!!

ぐうっ…
どういふ事なの…
間違いなく胸は膨らんで…

弱体化しているハズ
なのにつ!!



ふふふ…不思議だろ
弱体化したハズの俺が
いつも以上の力で戦える事…

私のせいで…?
胸を大きく…
重く…

自分の首を自分で
絞めたってとこかな

ハッ!?

まさか貴女…!!
その…ッ!!



クソデカ胸を
揺らすことで
遠心力を生み出し

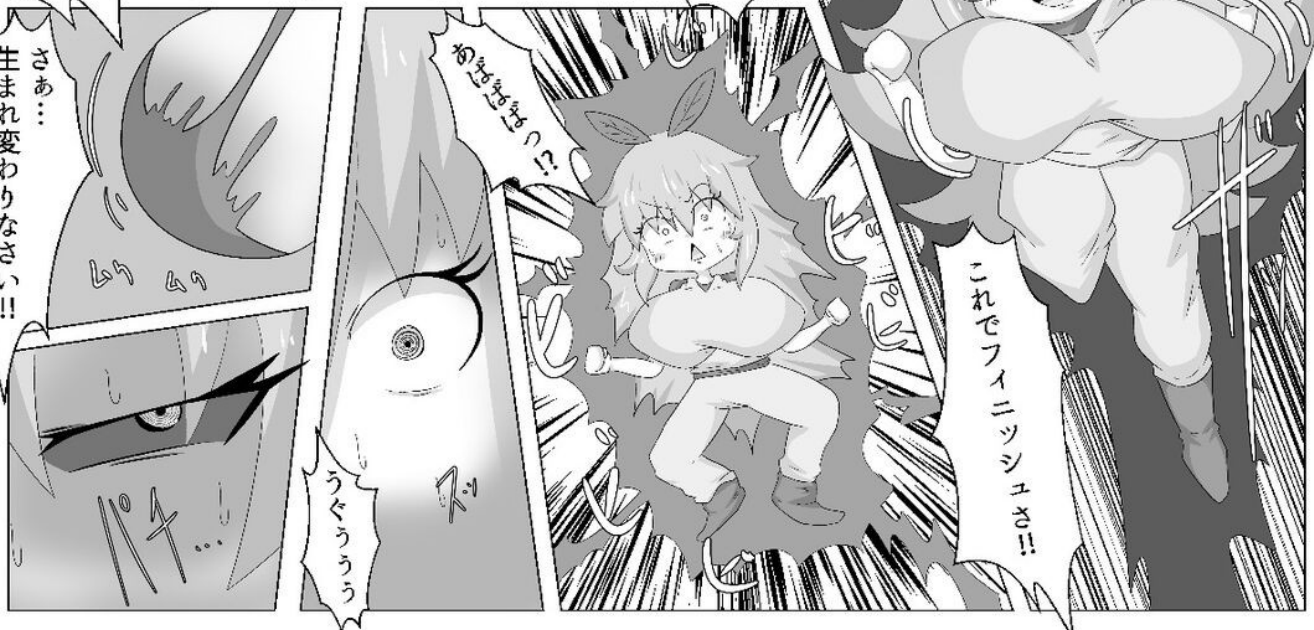
一時的に
攻撃速度を
上げていたと
言うの!!



気づいた所で
もう遅いぜ!!

アハハ!!
終わりなのは
貴女よ!!

ちようど胸も育ってきたし
何よりその動きは速いだけで
単調なのよねっ!!



これでフィニッシュさ!!

相違ない!!

うぐうぐう

さあ…
生まれ変わりなさい!!

ンナアアアアアアアア!

何ダア!?
コノスガタア!?

ワタシ…シャベリカタ
何かオカシイ…!?

とてもお似合いの
姿よ…眷属ちゃん

サキュバス
リーフィ様ツ

アナタ様ノシワザ
ナノデスネ!!…
ウツ…コトバガ…

アハハ
そうよ!!

今日から貴女は
サキュバスの
女の子よ!!

おおーっと!!リーフィ選手が
居なくなつたので!!
優勝はサキュバスリーフィ選手です!!
(審判)

エエツ!?

ソウ!!
ワタシハ
サキュバスダ!!

アツチガウ…
ワタシハ…

チガツ…ワタシガ…

ん? 貴女が
リーフィ選手なの
ですか?

違ふみたいですので
優勝品の贈呈に
移りますね!!

サキュバスリーフィ選手
願いをどうぞ!!

え? そうね…じゃあ
あの娘の名前を
"おっぱいちゃん"にでも
変えてあげて

アアアアア
アアアツ!

その後リーフィちゃんは
永遠に元に戻れずに
おっぱいちゃんとして過ごしたらしい

おっぱいちゃん
次はソコの掃除もお願いね♪
勿論おっぱいで拭いてね♡

カ…カシコマリマシ…タ

オツパイチャン…
ガンバリ…マス…ツ!!



もしかしてだけど
冷蔵庫にあった
僕のプリン食べちゃった？

あ

だあゝゝつ！
誰だ、俺を女にしたのは！



まさか……
あれか……？

うめー！
 Spoon icon



ちんぷん！
 Spoon icon

嵌めてきた
訳じゃないから
怒るに怒れねーっ



そのプリンは
僕が開発した
TSプリンでね



でも、人のプリンを
勝手に食べるのが
悪いよね？



それとも知ってた？
やっぱり女の子に
なりたいたのかなあ？

奥義3： リーファイ

祭り

祝

女体化記念
リーファイ人気投票
結果発表!!!

第6位	リーファイ (メイド服)	301票
第7位	リーファイ (スクール水着)	258票
第8位	リーファイ (ナース服)	199票
第9位	リーファイ (チャイナ服)	176票
第10位	リーファイ (ミニスカポリス)	89票

みんな
ありがとう

キリンのお気に入りのリーファイは何位だったかな? たくさんの投票 本当にありがとう!!

第1位
メスリーファイ
5071票

第2位
オスリーファイ
3072票

親友に感謝♥

第3位
サキュバスリーファイ
1802票

第5位
イメチェンリーファイ
514票

順当な
順位ですね

リーファイに
負けた...

第4位
一頭身リーファイ
721票

フン

だあ
かあ
らあ

おっぱいはっかかり盛りすぎだつて
手もただ細いだけで色気ないし

あと腰周り
太ももは太すぎて変だし
くびれもちよつと
かくかくしてるわよ
もっと勉強した方が
良いんじゃない？

リーフイちゃん

の
受難

ホント
女の子の体のこと
分かってないわよね

女体のことなんか
分かるわけ
ないじゃるがい!!!

ふん
♡

じゃあ女の子
「なって」一緒に
お勉強しよっか♡

や、ちよつと
そうじゃなくて…
ちよ…やめっ…!!

だあ
うるへく
!!
分かりたくても
こちらら男なの!!

アッ



♡♡♡♡♡

まあずいぶんこと

可愛く
なつたわねえ♡

♡♡♡♡♡



ね♡
そう思わない？♡

んんんんん！！



それじゃ♡
女の子の体
について…

お勉強して

イキましようか♡

んんんんん！！



まずはおっぱい♡
ただ大きいだけじゃダメ
柔らかくて自分でも
揉みたくなるように
えっちに描かなくちゃ♡

くびれ、太もも
もっちり柔らかく♡
線を引こうと
思っっちゃダメ♡

それから
オマン♡

ココはとおっっても
大事なト・コ・ロ♡
だからあ♡

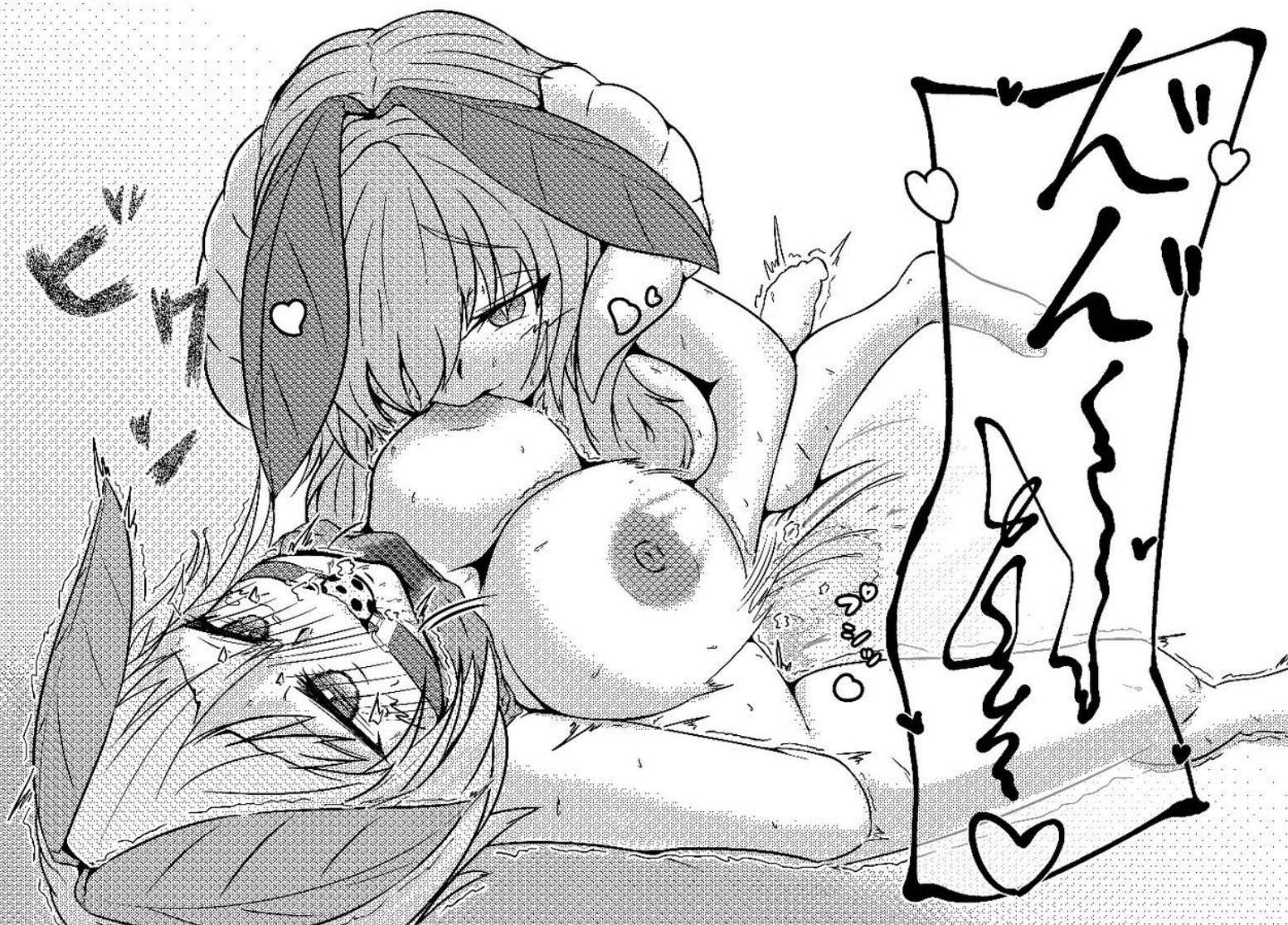
じっくり♡
丁寧に力いてあげて♡



ほおら♡
もっと身体で感じて♡
ココロに刻んで♡
気持ち良くなっっちゃえ♡

あらっ♡
もっイク♡
もうイっちゃいそっ♡
イイよ♡
我慢しないで♡

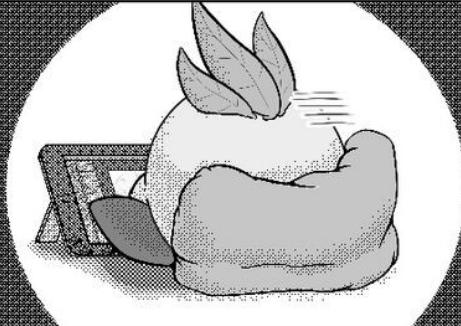
ほおら♡
あともうちよっ♡
がんばれ♡
がんばれ♡



はあい♡
大変良くできました♡

うふふ♡
とっても可愛かったわよ♡

復習したくなったら
いつでも呼んでね♡



.....

前よりスラスラ
描けてる気がする
そう思う
リーファイちゃん
であった

★梅しい!
でもゲファンゲファン!



なんかめっちゃ雑に女にされてる上に

胸も大してでかくない!!



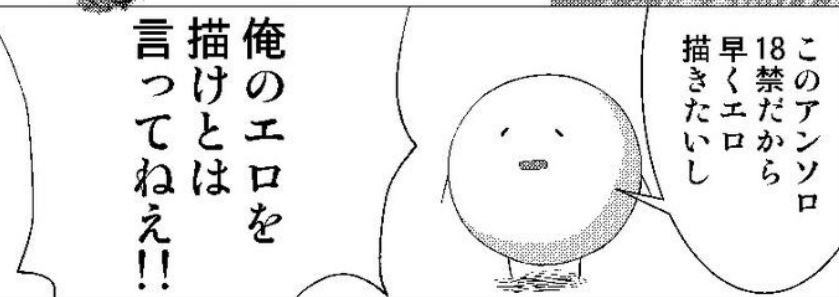
また女になってる!!



背景もない。

そうそしてこの漫画には時間も無い

なので君にはさっさと女になってもらった



このアンソロ18禁だから早くエロ描きたいし

俺のエロを描けとは言ってるねえ!!



うわっなんか一頭身かぶりしてる奴がいる!!

なに人を勝手に女体化してくれとんじゃ!!

そうは言ってもこのアンソロを読む人間は全員この展開を期待してるよ



諦めて読者の期待に応えなさい(無慈悲)



エロも雑!!

もうアンソロは
こりごりだーっ!!



尺余り

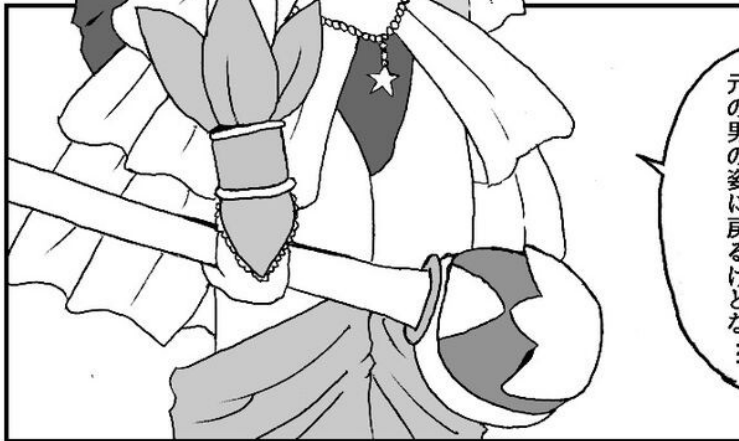
☆また主催してねー





ところでその…
プリンセスフォームだっけ？
かわいいな

プリンスフォームだっけの
かわいいとか言うな



もうこの姿も役割が
終わったから
元の男の姿に戻るけどな…



やったのか…

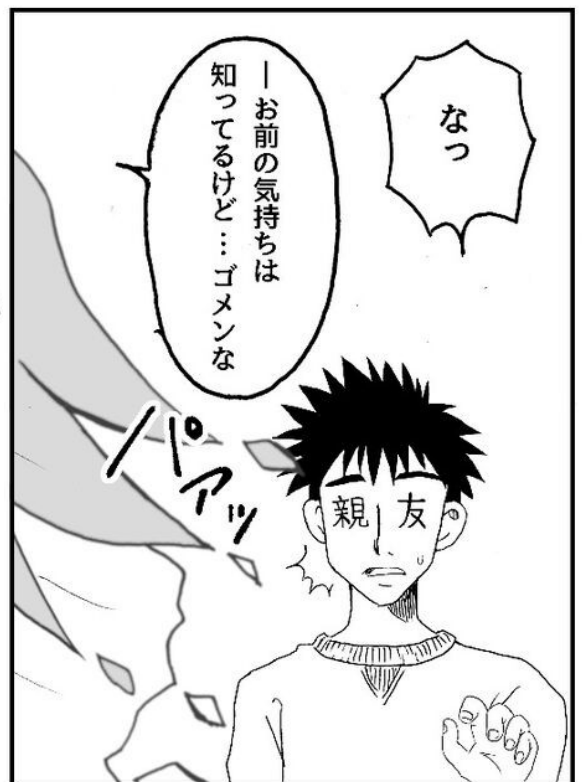
ああ
サキュバスリーファイは
完全に消えたよ

リーファイちゃん 最終回『Rify』

作・画 くまのみ。



俺が男に戻っても
親友でいてくれたら
うれしいな

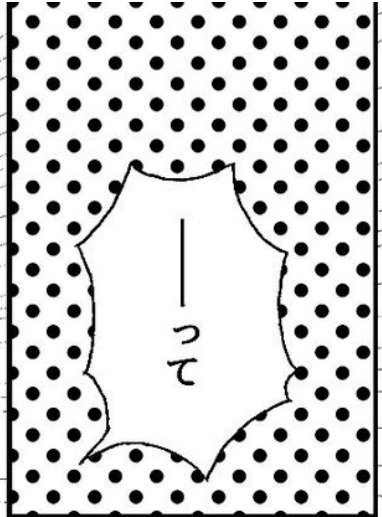


—お前の気持ちは
知ってるけど…ゴメンな

なっ



なんで女の姿の
まんまなんだよ!!??



バカかオマエは
!!!!!!

よし結婚しよう
リーファイ

親友



これからはあなたが
サキュバスリーファイとして
ガンバってね☆

それは私が消える直前に
サキュバスのチカラを
あなたに植え付けたからよ

なっ!??



これからもまだまだ
撮影でござりますし。



リーファイちゃんの
女体化はこれからだ……

温泉旅行に来た
リーフイさん

カポーン

湯の湯

温泉サイコー！

来てよかった

そろそろお楽しみ
のバイキングの時間かな？
上がるかー

ビュンヤ

ん？

なんじゃ？

TSの湯って何？

ボク

おや

誰か来る前に
元に戻らないと…

また
また

あれ？

作：星野かえり @ xkaede518

リーフイと！

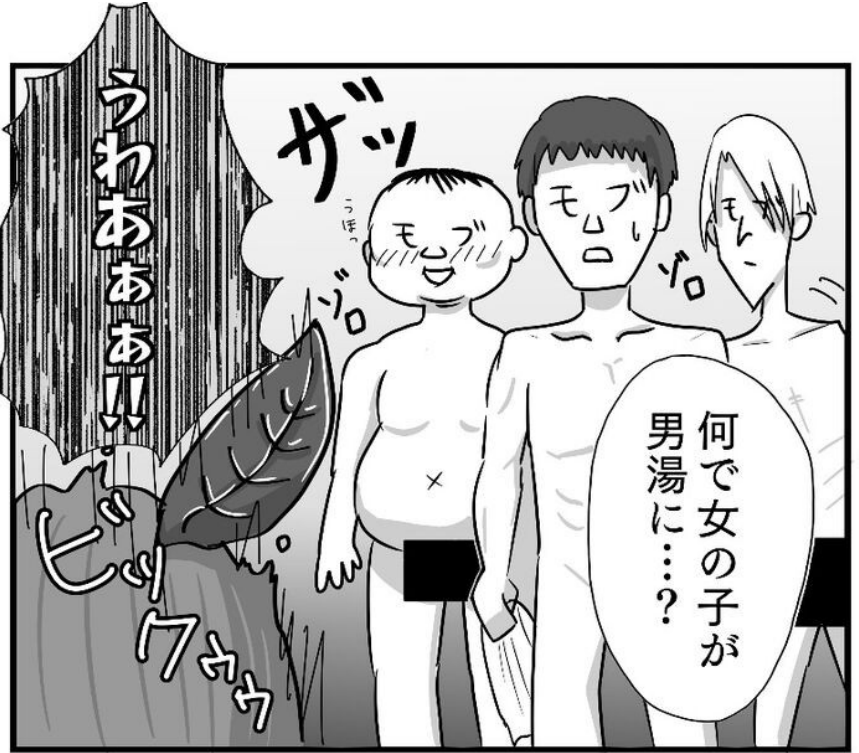
即墮
劇場

TSの湯



逆ナン?
それとも痴女かな?

可愛いねえ
俺らと遊ばない?
ぐふふ



うわあああ!!
シッ
ワウウ

ガッ
モブ
モブ
何で女の子が
男湯に...?

お楽しみ中♡
お楽しみ中♡
お楽しみ中♡



よっしじゃあ
もう一周!!

カポーン
やりすぎちまった...
大丈夫かな?
うっわあ...

いやまだ
いけるっしょ

楽しそう
よかった♡
TSの湯
やりました

わたしか



また私の邪魔をするのね？
もう一人のわ・た・し。

誰がもう一人の
私じゃボケエーツ！
ただの女の子に手を出そうとして、
お前はなにを考えてんだ！

頭中火葬リーフィ
作！はんげしよう



アンタは逃げな。
ここは俺が
相手をする。

はいっ！

早く、行け！

俺は男だからな。

大丈夫
なんですか？



よくも今日の獲物を
逃がしてくれたわね。
私、今日機嫌悪いのよ。

よく吠えた。

でも、残念。
一撃で終わりよ。

お前は俺が
倒してやる！





あなたはサキュバ……



……どなた？
もしかしてさっきの……



あが……ッ



助け……誰か……

動けな……

へろ

ドサッ

びくっ



グキョ







：朝起きたら
胸がなんかはれてて
オレ：死ぬのかな：

そうか！
そうだよな！
頭いいな！
すげえ！

ええ？
太っただけっしょ

これは太ったのではない
超女体化サプリメント
エッチスルホドメスナール
の効果である

ふむ…バレてない
そう…彼は
単純なのである



っておいホ
なにしてんだよ!!

バカ言えっ
こういう運動だよ
脂肪燃焼させて
きもちっしょ？
もう明日にはっしょ！
もっしょっしょ！

んっ？
なにして
胸もんでんじゃん

なん…で…だ…よっ!!
変態かっ!!

ん
そうか…悪かった
たしかになんか
きもちい感じる
ちよっといたい

ちなみにサプリは
エロいことする度に
身体の女体化が進むぞ



大変だ!!
もう股間の方まで
ウイルスが転移して
おマンコができてくる!!

なんでえ!?

口からだと言った精液が
足りなかつたんだ!!
時間が足りない!!もう直接
こっちから入れるぞ!!

くはあ♡

お……
おう……?
直接……



じゃあ
ほぐすぞ!

どっつにっつ!!
指っ!!とめっつ!!

はやい

おっおっ!!

ちよっ

あ

あ

あ

あ

あ

そろそろ
ほぐれてきたかな

ふふっ

おほああ

あつすげえ！
しめつけられるっ！！

でもやっとな
これでもとに……

もとに
戻れるんだっ——！！

戻らなかった

おちんほ
おちんほ

あはあ

あはあ

HAPPY END

リーファイちゃんは
やっぱり女の子だなくっ
お汁がどんどん溢れてくるよ

リーファイ女の子
じゃないもん

そんな事言っつて
感じて乳首までピンピン
じゃないか

やあなあ
見なあ

ドクン
ドクン

いぬここま

…それじゃあ
本番行こうか

ん



はーい、一丁
あがりっ♪

こんなはず…
じゃ…ない…
くしょおお…♪

その姿で
売り続ければ
版權問題
解決じゃない!

ひろみ
さきほす
最悪な方法で
解決された!

もう嫌だ!
こんな空間
いられるか!
男が消えちゃう!

それでは皆様
「フリーファイ合同
りたーんず」
ありがとうございます
ございましたー

少しでも
楽しんで
頂けたら
幸いです!

うわあああ
締め挨拶まで
取られた!

もう!
合同なんて!
こりこりだー!